

平成30年 第16回

東京都教育委員会定例会議事録

日 時：平成30年10月25日（木）午前10時

場 所：教育委員会室

平成30年10月25日

## 東京都教育委員会第16回定例会

### 〈議 題〉

#### 1 議 案

第83号議案

東京都公立学校教員の懲戒処分等について

#### 2 報 告 事 項

(1) 平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」及び平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

(2) 平成29年度における児童・生徒の問題行動・不登校等の実態について

教 育 長	中 井 敬 三
委 員	遠 藤 勝 裕
委 員	山 口 香
委 員	宮 崎 緑
委 員	秋 山 千 枝 子
委 員	北 村 友 人

事務局（説明員）

教育長（再掲）	中 井 敬 三
次長	西 海 哲 洋
教育監	増 渕 達 夫
総務部長	早 川 剛 生
都立学校教育部長	江 藤 巧
地域教育支援部長	太 田 誠 一
指導部長	宇 田 剛
人事部長	安 部 典 子
福利厚生部長	浅 野 直 樹
教育政策担当部長	古 川 浩 二
企画調整担当部長	谷 理 恵 子
担当部長＜特命＞	川 名 洋 次
教育改革推進担当部長	増 田 正 弘
特別支援教育推進担当部長	小 原 昌
指導推進担当部長	藤 井 大 輔
人事企画担当部長	黒 田 則 明
（書 記） 総務部教育政策課長	曾 根 稔

## 開 会 ・ 点 呼 ・ 取 材 ・ 傍 聴

【教育長】 ただいまから、平成30年第16回定例会を開会いたします。

本日は、教育新聞社外2社からの取材の申込みと、6名から傍聴の申込みがございました。また、教育新聞社から冒頭のカメラ撮影の申込みがございました。以上につきまして許可してもよろしゅうございますか。——〈異議なし〉——では、許可いたします。入室させてください。

### 日程以外の発言

【教育長】 議事に入ります前に申し上げます。

東京都教育委員会において、一度注意してもなお議事を妨害する場合には、東京都教育委員会傍聴人規則に基づき退場を命じます。特に誓約書を守ることなく、退場命令を受けた者に対しては、法的措置も含めて、厳正に対処いたします。

なお、議場における言論に対して、拍手等により可否を表明することや、教育委員会室に入退室する際に大声で騒ぐ、速やかに入退室しないと行った行為も退場命令の対象となりますので、御留意願います。

### 議事録署名人

【教育長】 本日の議事録署名人は、遠藤委員にお願いいたします。

### 前々回の議事録

【教育長】 前々回9月13日の第14回定例会の議事録については、先日配布いたしまして御覧いただいたと存じますので、よろしければ御承認を頂きたいと存じます。よろしゅうございますか。——〈異議なし〉——では、第14回定例会の議事録については承認を頂きました。

前回10月11日の第15回定例会の議事録が机上に配布されております。次回までに御覧いただき、次回の定例会で承認を頂きたいと存じます。

非公開の決定でございます。本日の教育委員会の議題のうち、第83号議案及び報告事項（2）につきましては人事等に関する案件でございますので、非公開としたいと存じますが、よろしゅうございますか。——〈異議なし〉——では、ただいまの件につきましては、そのように取り扱わせていただきます。

## 報 告

（1）平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」及び平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について

【教育長】 それでは、報告事項（1）平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」及び平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果について、指導部長説明をお願いします。

【指導部長】 それでは、都独自の学力調査と国の学力調査について、本日は特に都独自の学力調査を中心に、御報告させていただきます。

まず、報告資料1枚目の1、調査の概要でございます。（1）調査日時、（2）対象学年、（3）調査内容につきましては、ここに記載のとおり、例年と変わっておりません。（4）平均正答率と習得目標値の表でございますが、習得目標値につきましては、どの子供も身に付けてほしいといった、いわゆる基礎的な知識や技能で、教科書の扱いで言えば、例題レベルのものです。小学校、中学校別に平均正答率、そしてその習得目標値の問題の正答率が出ていますけれども、習得目標値は基礎的、基本的なものですので、全体の平均よりも高くなっているという傾向がございます。具体的に問題を見ながら、学力の定着が図られている、それから、改善が図られつつある、また、少々課題があるというところについて、説明させていただきます。

まず、学力の定着が図られている問題として、小学校の算数の $10 - 3 \times 2$ という問題を挙げています。実際、四則計算でどこから始めなければいけないかという問題

で、これを10から3を引いてそのまま2を掛けてしまうということではないという問題ですけれども、正答率が88.6%でした。平成25年度も同じような問題を出しておりますが、10%の上昇が見られています。

小学校理科の問題ですけれども、これは、電気や磁石の性質を理解して、金属等の種類を判別していくというものです。これも平成23年度も同じような問題で、当時は正答率が52.4%だったのが、今回は71%と上がっております。

次に改善が図られつつある問題で、中学校の英語の問題です。答えは、What color do you like? ですが、子供たちはWhatの後に名詞が来る、What sport do you like? とか、Whatの後に名詞が来るのが非常に苦手でした。平成15年度からこの調査を始めていますが、改善がなかなか見られませんでした。しかし、ここに来て、昨年度よりも正答率が10ポイントですが上昇し、Whatの後に名詞が来る、これができつつあります。

次に、定着がまだまだ不十分な問題というところで、まず、小学校の国語です。例文ですけれども、「昨年、上野動物園でパンダの赤ちゃんが生まれた。」この「パンダの」は何を説明してるのか。もちろん、「パンダの赤ちゃん」ですから、ウが答えで、正答率が53%です。一番誤答が多いのは、反応率はイですから、「上野動物園で」。「上野動物園のパンダ」というふうに、取ってしまうのかもしれませんが、まだ、これも小学校は平成16年度から調査を開始していますが、修飾、被修飾の関係が、課題としてあります。

小学校社会、これは地図ですけれども、東西を問う問題です。子供たちは、南北、北と南についてはよく分かっていますが、東西について、きちんと答えられた児童は60%、6割です。ですから、なかなか、北と南、地図で言ったら、上が北というのは分かるのですけれども、どっちが東でどっちが西かというところがまだ、不十分どころになっています。

それから、中学校数学の円柱と円錐すいの関係です。問題は、円柱の体積は円錐すいの体積の何倍か、これは3倍なので、答えは3ですけれども、これも6割いっていません。まず、この問題は、一つ、円柱と円錐すいの関係で3倍になるということが、分かっているかということと、それから、この問題が、どっちを聞かれてるのか、つまり円柱の

体積は円錐<sup>すい</sup>の何倍かというものですけれども。これを3倍だったなというのは分かっているながら、これを読み間違えると、3分の1になって、約8%の生徒が、3倍というのが分かっているながら、やはり読み切れていない、読解力の課題になるのかなというところですよ。

それから、(4)です。これも毎年取っているのですけれども、「授業の内容はどれぐらい分かりますか。」というところで、小学校と中学校を出しています。平成19年度から右肩上がり、だんだん分かると言っている子供たちの割合が高くなっていますが、今年度は、小学校5年生、中学校2年生で、少し下がっている傾向があります。これは前年度と比べてということですが、今年の中学校2年生は、平成27年度には小学校5年生でした。そうすると、平成27年度のところを見ると、やはり小学校の国語、社会、理科で、少し下がっていたのです。前年度に比べ、ほかの上の学年に比べると。ですから、今年の中学校2年生の子供たちは、やはり、学習に対して、なかなか「よく分かる」と自信を持って答えられていなかった学年だったかもしれません。

逆に、今年の5年生も、そういった形で、去年の5年生と比べて、少し下がっている傾向があるということから、この子供たちが中学校2年生になったとき、3年後に、この調査を受けるわけですので、そのときにやはり、小学校と中学校の教員で連携を取りながら、よく分かるようになったというような、右肩上がりになるような、一つそういう課題を頂いていると考えております。

それでは、次に資料2枚目を御覧ください。これらは三つの質問紙調査についてです。まず、(5)は、学校の先生方に聞いたもので、「振り返る活動を授業で行っていますか」ということです。授業というのは、大きく分けると、一番最初に、例えば、今日はこういうことをやりますという導入、それから、展開があつて、最後はまとめがあるのが普通です。振り返る活動というのは、今日1時間こういう勉強をしましたという活動ですけれども、チャイムが鳴るまでずっと授業をしていて、「チャイムが鳴った」と、最後、まとめをしないで終わってしまう授業がないわけではありません。そういったところで、この結果を見ますと、やはり、授業の最後のところで、今日はどういうことをやったという振り返りを子供たちにさせると、正答率が高くな

っています。特に、小学校と中学校を比べますと、やはり、小学校の方がこういった形を、「よく行った」「どちらかといえば行った」というのは、90%以上となっています。平成29年度、30年度を比べると、「よく行った」が増えていますし、中学校も90%となっておりまして、「よく行った」というのが増えております。

それから、(6)ですけれども、これは子供たちに聞いたものです。「自分の考えを発表する機会がありますか」という質問です。「ある」「どちらかといえばある」と答えた子供たちの方が、平均正答率が高くなっています。これも考えると、当たり前だと思うのですが、やはり自分の考えを発表する場合には、自分の考えとか知識を再度自分の頭の中で再構築したり整理したりします。そういうような活動と申しますか、作業が、いい結果になっていると思います。

ただ、これは教員側にとってみると、全ての時間でいつもこう発表するような活動を入れることは、なかなか難しいわけです。ですけれども、やはり一つの単位ですとか、大きく言えば、年間の指導計画の中で、どの教科でどの時期に、こういった子供たちが発表する機会を設けるかということ、丁寧に指導計画に位置付けていく、そういうことが大切かなと思われまます。

それから(7)、これも毎年取っている自尊感情ですけれども、やはり、自分のことを大切に感じている子供たちが、平均正答率が高いというのは、これはもう今まででも言われていたことです。やはり、自分自身に成功体験を持つ、それから、教師もきちんと認めてあげる、それから、子供同士で褒める場面、そういうのを、やはり適切に授業の中で作っていくこと。それと、こういったことをやはり、御家庭で保護者の方にも、自分のことを大切に思っている子供たちというのは伸びていくことを、いろいろな機会ですらせていって、子供たちの良い場面を捉えて、きちんと評価してあげる、それがとても良いことになるんだということを保護者の方にも伝えていきたいなと考えております。

次に、3枚目の資料を御覧ください。これは、都の学力調査の各教科の正答数の分布です。これにつきまして、小学校算数、中学校数学を御覧ください。この小学校算数のところ、習得目標値の問題数10問というのがあります。教科書の例題のレベル、必ず全員が身に付けてほしいというところなのですが、これに達していない子供たち

が16.4%です。中学校の数学も、24.2%ということで、やはり、算数・数学は、積み上げの教科ですので、一度つまずいてしまったら積み上げが難しいというところがございます。ですから、この小学校の16.4%、それから、中学校の24.2%というのは、いかに減らしていくかというところが、各学校の先生方の努力を今していただくところだと思います。また、そういった積み上げ教科というのは、ほかのグラフと比べて、やはり、なだらかな台形のような形になるのが特徴です。

4枚目の資料を御覧ください。平成22年度からですが、都独自の調査においては、読み解く力に関する問題というのを出题しております。平成22年度からで、どんな問題かといいますと、①、②、③と3段階があります。まず文章やグラフ、図から、単純に第1段階として、情報を正確に取り出す。そして、第2段階として、複数のグラフや文章といったものを関連付けて読み取る。第3段階として、意図や背景、理由を理解、解釈、推論して解決していくと。だんだんと難しくなっていきます。これは、OECDで行っているPISA調査とも関連しますが、東京都独自に平成22年度から考えた、読解力、「読み解く力」に関するものです。

今年度、全ての教科でこれを出しているのですが、数学の問題を本日、御説明させていただきます。

あるスーパーマーケットの問題です。このスーパーマーケットでは、7月の第1週は月曜日から金曜日まで2割引で行う。特に第1週の土曜日はその2割引から更に3割引とする。そして、第1週の日曜日は、全ての冷凍食品を半額という、かなり気前のいいスーパーマーケットですけれども。このところで、まず第1段階として、スーパーマーケット第1週の日曜日は、価格の半額なわけですから、単純に情報を取るのですけれども、5割引という形です。74%、少し8割を切っていますが、これぐらいの正答率がありました。

そして、第2段階として、2問あります。これは7月の第1週の月曜日に販売している価格、2割引ですから、8掛けを式で表せるかというもの。それから、(2)です。土曜日と日曜日は同じ物を買うとすると、どちらが高いかな、これが土曜日は幾ら引かれるか、日曜日は幾ら引かれるか、これを二つ比較してみるというものです。これが大体、55%、6割弱という正答率です。

そして、最後に、解決する力、どういう問題かといいますと、第1週の月曜日に販売している価格と、日曜日に販売している価格、半額ですね、その差が90円だったとき、どうなるかという問題です。正答率は10%ありません。この問題文自体は、3行にわたっているので、なかなか難しい問いですが、8月の総合教育会議でお話しいただいた、読解力にも関係しているかと思います。なぜならば、全く答えていないのが34.4%です。これだけ多いということがあります。そういったところで、式を立てる、数学的に読み取る力というの、課題があるということです。

本日御説明いたしませんけれども、全国の問題でもやはりこういった読解力についての問題が出ております。今、その読解力についてお話ししましたので、次の5枚目の資料で、言語能力について、御説明いたします。

東京都の今回の問題で、小学校の算数の問題です。これも、毎年出しています。「24センチの赤色のテープと」というところから始まっていて、第2段落で、「図の赤色のテープと黄色のテープのほかに、青色のテープがあります。赤色のテープの長さは青色のテープの4倍です。青色のテープの長さは何センチですか。」ですから、6センチです。ところが、6センチと答えたのは、6割を切っています。逆に、96センチと答えた、これは、24センチの赤色に4倍を掛けてしまっています。これは読み取りのミスなのですが、やはり17%、2割近くあります。

全国の問題もそうです。【小学校国語A】を御覧ください。これは点線のところとアンダーラインのところの関係が正しいかどうかという問題です。①を読んでみます。「僕は、校庭で野球の練習を毎日頑張りました。」これは全くおかしくありません。ところが、④を見ていただくと、「反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした。」これは文としてつながりがおかしいので、④がおかしいというのが正答です。東京都の場合、正答率は、全国に比べて7ポイント高く、よくできています。ただ、無答率が全国よりも多いというところがあります。ですから、これはやはり読み取りができていないのではないかという危惧がございます。

それでは、最後に、全国の学力・学習状況調査の結果について、資料の6ページを御覧ください。今年は3年に1回の理科が加わりました。左側の一番下です。括弧の中が全国ですけれども、東京都の場合、中学校の理科が全国より1%下回っております。

す。他については、全て全国よりも上回っております。これは毎年の傾向です。東京都の子供たちは、いい傾向にございます。

ただ、問題は理科です。理科の問題を一つだけ御覧いただきたいと思います。白衣を着た先生が説明しているところです。これは、目で見えたものがどういうふうな反応の経路を辿って筋肉に伝わるかという問題で、目で見えたものが、何とか神経を通して脳にいきますという問題です。正答はそこにありますように、感覚神経又は視神経ということですが、この正答率が全国よりも10ポイント低くなっています。

これは基礎的、基本的な知識ですが、こういったところが、東京都の場合、前回、3年前の中学校の理科も、若干全国の平均よりも理科が低かったというところがあります。そういったところに、理科の課題が見られます。

最後に、2枚目の資料を御覧ください。今まで説明させていただいたところを通して、最後に、今後の取組の方向性について4点御説明いたします。今の理科のこともありましたが、まず、知識・技能の確実な定着、そして現在の学習指導要領でも言われていますけれども、思考力・判断力・表現力を高めていくような授業の改善を図っていく。

それから、2番目、先ほど、発表すると、なかなか効果があるということがありましたけれども、単元や内容のまとまりの中で、どこでこう発表をさせていくか。それから、子供たちが自分で考えたことを振り返っているか、そういうことをきちんと単元や内容のまとまりの中で、位置付けていくということが二点目。

3点目、やはり、自尊感情が大切だという話があり、結果が出ておりますので、例えば、グループ協議、グループで子供たちが話し合いながら、相手を認めていく、そういうことで、自尊感情を高めていく。現在も行っているところです。

最後、やはり保護者の方、家庭での学習の振り返りですとか、それから、東京都で使っているベーシックドリルも家庭で活用するようになってございます。そういったところで、御家庭でのいろいろな取組もというところ、先ほどの自尊感情のことも含めまして、保護者の方にリーフレットなどで情報を発信していきたいと、考えております。

報告は以上です。

【教育長】 ただいまの説明につきまして、御意見・御質問ございましたら、お願いいたします。

【秋山委員】 1枚目の、結果の概要というところがありますが、ここで、「定着が図られている問題例」で、今年とその参考に比べられているのが平成25年度で、次のが平成23年度、最後のが平成29年度というふうに、比較されている年度が違うのですが、これはどうして比較年度が違うかというのと、昨年度に比べてどうだったかというのを知りたいと思います。

【指導部長】 一番上の計算の問題ですが、毎年こういった計算の問題を出しております。かなりこの形と近い形が平成25年度です。それから、2番目の理科、平成23年度でだいぶ空いてしまったのですが、最も新しいものです。この平成29年度の英語につきましては、毎年度出していく中で、少しずつ改善が見られて、昨年度と比較したものでございます。

【秋山委員】 なるほど、分かりました。一番似ている問題を探せば、その年度だったということですね。了解しました。

【北村委員】 だいぶ東京都の子供たちの学習の状況が、把握できているのだなということを感じました。その中で、やはり最後の取組の方向性で御家庭、地域の連携というお話がありましたけれども、なかなかその学校の中で、どういうことが問題になっていって、そこを家庭に対して、ここをこうしてほしいというようなことがもちろん、リーフレット等があるとは思いますが、保護者によっては、言われても何をしたらいいか分からないとか、家庭によって、子供に対するサポートが適切にできる家庭と、なかなか困難を抱えている家庭があると思います。そういう意味で、もう少し何か、今までも積み重ねをされて、家庭に対して保護者向けに情報も発信されてることはすごく理解した上で更に、何か困っている家庭に対して、少し支援の模索のようなことも検討されているのかどうかということをお伺いしたいというのが一点です。

もう一つは、やはり、先生方が、この調査が日常の指導と、こういった学校質問紙調査や生徒質問紙調査と、学力の調査をうまく組み合わせて、先生方にとっても、こういった指導が効果が上がるかなということが、かなり見えてきていると思います。

先ほど御説明もありましたように、それを細かく細かくというよりは、全体の中で指導の在り方を考えるということで、先生方に対してもかなり方向性を明確にお示しになられているのかなと思うと同時に、先ほどの家庭と同じで、先生によっては、それを実践するとなったときに、課題を感じたり、なかなか難しさを感じている先生もいらっしゃると思います。そういった意味で、こういった調査をした結果を踏まえて、先生方に対して、特に必要な指導のサポートとか研修とかを御検討されたり、実施されているのかをお伺いしたいと思います。

【指導部長】 家庭への支援ということですが、リーフレットをこれまで出している中で、家庭でもよろしくお願ひしますという書き方ではなく、例えば、親子で買い物に行って、おつりが来たときに、どうするとか、あと、新聞を読んだときに、親子でこういうふうなことを話題にしませんかというような、具体的な形になっています。ただ、それだけでは、やはりなかなか難しいということで、今、御指摘があったのだと思います。ですから、例えば、広い意味ですけれども、スクールカウンセラーとか、スクールソーシャルワーカーの力を借りながら、御家庭で抱えている課題、それに対して、担任、学年、学校で、学習だけでなく生活も含めた支援を今、工夫しております。

次に、学校の先生方へのサポートです。まずは、この調査を行って、こういう問題を出しましたという問題の意図ですとか、そういった説明会を行います。それは、この結果が出た後も、先生方の授業実践についての研修会と報告会を行うことと、あと、毎年、報告書を出しています。ただ、報告書をメインとするよりも、実際、我々はその機会を捉えて先生方に来ていただく説明会とかをやっています。

特に、これだけ東京都の子供たちの学習、それを比較ではないですけれども、とてもいい状況であるというのは、東京都といたしましても、いろいろな習熟度別指導ですとか、教員の加配とか行っておりますけれども、一つは先生方の日頃の指導のたまものだと思います。ですから、本当に今やられている指導というのは、本当に自信を持ってくださいということをお話ししながら、そして、改善する。もしこういうところがあつたら、改善する余地があります、という説明会、報告会を心掛けているところです。

【宮崎委員】 1 ページ目の、先ほどの御説明で、(4) の理解度の問題で、平成27年度が少々下がっていると。したがって、そのときの、小学校5年生が中学校2年になって受けた今年が、やはり少し下がっているというお話がありました。3 ページ目の正答率で見ると、さすが、算数・数学は正規分布の問題を作るなっているのを思いましたけど、国語はかなり右に寄ってるんですね。つまり、簡単なんです。やさしい問題を出してるはずなんですね。にもかかわらず、今の1 ページ目の理解度というところで、やはり、平成27年度の生徒たちは、少々下がっているということを考えると、この年に何か原因があったのか。例えば、学習指導要領が大きく変わったとか、なにかそういう原因があったのかどうか。平成23から24年度辺りが少々へこんでいるのは東日本大震災とか、そういう影響があったかもしれない。子供たちの、移動が結構ありましたので、そういうことがあったかもしれないと思うのですが、平成27年度の原因がもし分かるようならば、今後の改善に生かしていけると思いますので、その辺について教えていただければと思います。

【指導部長】 御指摘のとおり、学習指導要領が変わった、例えば、平成20年度に告示をされた後ですけれどもその後というのは、少し混乱することがあります。小学校の算数がやはり落ち込んでいたり、小学校の理科も平成22年度のところで落ち込んでいるところがあります。平成27年度は、なぜこうだったのかということを我々も分析をしたのですが、特に大きな流れということはありませんでした。ただ一つ、先ほどのグラフで見ると、ある程度問題ができるのにもかかわらず、子供たちが、分からないと言っているとすると、自信がないような子供たちの傾向があるのかなとは思いますが。申し訳ありませんが、ここでなぜ平成27年度が、小学校も中学校もこうだったのかというのが、なかなか測りきれないところがございます。

【宮崎委員】 これはずっと、毎年やっていて、この蓄積がとても大事だと思うのです。だから、これから平成27年度のような年については、是非原因を分析していただいて、改善に役立てていただければと思います。

【指導部長】 はい。

【遠藤委員】 私も宮崎委員と全く同じところに、この結果の中で注目しております。一つ目は、宮崎委員と全く同じです。何か平成27年度に要因があったのかという

ことが一つ。これは今のお話で、学習指導要領でもないとする、何なのかな。そうすると、平成27年度について具体的に何か考えることによって、何か手立てが考えられるのかなということ。もう一つは、この平成27年度の小学校5年段階というのを、この結果というものを受けて、中学校に入って、そのまま引きずってこういう形になっている。途中で中学受験というのがあるわけです。公立の小学校の場合には。この中学受験の影響というのは、大きな母集団からいくと、やはり影響ないと考えていいのかなというふうに私なりに思っていたのですが。その辺は何か、中学受験が間に入ってもやはり、平成27年度に起こった小学校でのその傾向がそのまま中学校へ引きずるというふうに考えていいのか、その辺いかがでしょうか。

**【指導部長】** 委員のおっしゃるように、全体で見ますと、中学受験で私立学校に行くのは、大まかに言うと、2割です。8割の公立小学校の子供たちが、公立中学校に行きます。ですから、そういった意味では、大きな影響はないと思います。平成27年度について、これは意識調査で、内容はどのぐらい分かりますかということですので、本当にこの子供たち、今の中学校2年生の子供たちの学力について分析した場合、もしかしたら、学力はそんなに悪くなくて、ただ自分に自信がないと、そういったこともあるかもしれません。あるいは、両方とも低い、問題があるということも。

そういったところを、やはり、今、お二人の委員から御指摘いただいたとおり、分析をしていきながら、逆に言えば、子供たちに自信がないならば、今の5年生のそういったことが分かれば、これからどんどん子供たちに自信を付けていくような指導をということが見えてくると思います。

**【宮崎委員】** 今の原因の、自信の部分ですが、例えば、授業そのものではなくて、SNSが普及していったとか、生活環境に大きな変化があったとか、そういう具体的要因もあるかもしれませんので、そういうところも合わせて分析していただけると。

**【山口委員】** 児童・生徒、子供たちの読解力といったところが、今、非常に問題になっていますし、東京都としてもこれから取り組んでいこうということですが、確かに読解力は落ちていると思いますが、問題の作り方というのですか、選び方というのですか。例えば、「上野動物園でパンダの赤ちゃんが生まれた」というのが、非常

に正答率が低いという。正答は「パンダの赤ちゃん」となるのですが。これは例えば、文章を変えれば、「上野動物園のパンダが赤ちゃんを生んだ」となったら、またこう変わってくるわけですよ。ですから、多分、子供たちがパッと見たときに、言っていることは多分理解している。ただその並びによってというところで、何かこの問題の作り方、つまり修飾・被修飾というところを見たときに、問題を変えたときに本当に子供たちが分からないのか。問題を変えれば分かるのであれば、ロジックは分かっているけれども、この文章だったから、理解できなかったという可能性があるもので、悪問とは言いませんけれども、その問題の作り方、書き方については、私はこう今説明を受けていて、大人でも、パッと読んで、理解できない文章も結構問題の中に取りました。

私が子供のときによく言われたのは、「引っ掛けだから、きちんと何度も読み直しなさい。」「パッと読んで、分かったと思わずに、それが問題なんだよ。」と、子供の頃、教えられていたのですが。でも、ただ、そういう意図で作っているとも思えないのですが、多分、丁寧に書くがゆえに、余計分かりにくくしているとか。そういうふうなことに慣れていくと、かえって読解力を損なうというか。だから、本当は、パッと読んで理解できる文章の方が正しいはずなのです。その辺を少し、これは東京都だけの問題ではないと思うのですが、問題の作り方についても、専門家も交えて少し検討していただけないかなというふうに思います。

英語は非常に分かりやすいと言われるのは、主語があって、述語が来て、目的語が来てと、並びがはっきりして分かりやすい。でも、日本語は、主語と述語の間にいろいろな言葉が入ってきて、どれが結論だかよく分からないという。そういうふうなこと、日本語としての文化としていいと思いますが、問題として適切かというのは、少々検討していただけると。

**【指導部長】** 問題の前の、指示文から子供たちが混乱しないような形で作らなければいけないと思っております。小学校以下の、1枚目の電気と磁石、少々長いのですが、これも何回も何回も検討しながら、これで子供たちが何が聞かれているか分かるかなというふうに作っているつもりです。

御指摘のとおり、引っ掛けと言いますか、わざと分かりにくいように、わざと間違

えるようにということは一切考えないようにしております。ただやはり、もっと良い聞き方があるのではないかということについて、絶えず検討していきたいと思えます。

【山口委員】 よろしく申し上げます。

【秋山委員】 私は、職業柄、学習に困難を抱えている子供たちに出会うことが多いのですが、そういう子供たちが、今、宿題をこなすのに、時間が掛かっています。ベーシックドリルをやった方がいいのだろうと思う子供も日々の宿題をこなすことで、ベーシックドリルに行き着かないのではないかと思います。ですから、個々の力に合った家庭学習の仕方の指導が必要だと思います。

それから、読解力の話が出ていますが、聞いて答えることはできるけれども、平仮名が読めないと文章が読めなくて、読解力が落ちていくというお子さんもいるので、その子供の課題を明らかにして指導することを徹底していただきたいと思えます。

【指導部長】 宿題については、例えば、教科書を学校に置いていく、そのときに家庭でどうするかという問題があるのですが。これと、そういう2番目におっしゃった課題もそうですが、一番重要なのは、一人一人の児童・生徒について、担任や教科担任、それから学校の組織として、専門家の意見も交えながら、この子供はどのような状況にあり、それでこの子供に対しては、どういうことに気を遣って配慮していくのか、それを一人で担任が判断して抱え込むのではなく、組織やいろいろな専門家の意見を聞きながら、当たっていく、それが非常に重要だと思います。その特別支援に関する考え方については、各学校でいろいろ研修会をやったり、講師に来ていただいたり、今、各学校でどんどん進めていくところですが、やはり御指摘のとおり、まだまだこれからというところがありますので、進めていただくように、我々でも、お話をさせていただきます。

【教育長】 ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは本件につきまして、報告として承りました。

## 参 考 日 程

### (1) 教育委員会定例会の開催

11月8日(木) 午前10時

教育委員会室

【教育長】 次に、今後の日程について、教育政策課長、お願いします。

【教育政策課長】 次回の定例会は、来月11月の第2木曜日であります8日午前10時から、教育委員会室にて開催を予定しております。

以上です。

【教育長】 次回日程は、11月8日午前10時でございますので、よろしくお願ひいたします。その他何か、この際ございましたら、お願ひいたします。よろしゅうございますか。

それではこれから非公開の審議に入ります。

(午前10時43分)